

花薫る島を活気づけたい 「浦戸の花物語プロジェクト」

ツバキや菜の花、ラベンダーなど、浦戸諸島には季節ごとにさまざまな花が咲き、訪れた人を楽しませてくれます。

一方で、浦戸諸島は東日本大震災で大きな被害を受け、今もなお、復旧工事が行われてい

ます。そんな島の状況を見て、自分ができることは何かと活動しているのが「浦戸の花物語プロジェクト」発起人の羽生裕一さんです。羽生さんは、島の花などを原料にパンやお菓子を開発、販売し、収益の一部を浦戸諸島の振興のために充てています。

羽生さんは、生まれつき耳が聞こえません。もともと、障がい者雇用に向けて実務経験を積むために、市内の事業所で勤務していました。そのときに浦戸諸島の存在を知ったと話します。これらのことから、羽生さんは、浦戸振興だけでなく、社会的弱者の雇用創出も目指して活動しています。2017年にプロジェクトを立ち上げてから、2年経った今、新たに一人を雇用し、プロジェクトの第一弾と

して、島のつばき油を使った商品を開発しました。将来的にはラベンダーやオリブなど、すべて浦戸産に切り替えることを目標にしています。

羽生さんは「商品は受注生産ですが、いつでもお買い求めいただけるようにする予定です。市内にお住いの方に、プロジェクトを知ってもらい、浦戸に訪れてもらえるきっかけを作りたいと思います」と笑顔で意気込みました。



しおがまの昔・懐かし 思い出写真館 ①

塩竈の懐かしい風景や街並み、人々の暮らしなどを写真で紹介し、皆さんの思い出とともに振り返ります。

今回は、毎年子どもから大人まで大勢の人たちでにぎわう春の恒例イベント「しおがま市民まつり」です。今年36回目の開催となりますが、昭和56年の市制施行40周年と塩竈商工会議所設立35周年の記念行事として行われた「しおがま産業まつり」が母体となっているそうです。

そして第1回「しおがま市民まつり」は昭和57年9月、塩竈市魚市場で開催されました。当時の主催団体（塩釜商店青年協議会（塩釜商工会議所青年部の前身））で幹事長をされていた菅原周二さんに思い出を伺いました。



(写真/昭和57年9月塩竈市魚市場)

祭りの名称は、「市民の人たちのための祭りにしよう」ということで、「しおがま市民まつり」にしました。魚市場で開催したのは2回だけですが、当時は魚を目当てに来た人たちも多く、約1万人の人たちでにぎわいましたね。第3回（昭和60年）から商店のにぎわいを取り戻そうと本町周辺に会場を移し、開催日も4月第4日曜日に変わりました。現在の場所に移ったのは第6回（昭和63年）からになります。

主に昭和40年代から平成10年頃までの塩竈の写真を募集します。詳しくは市ホームページをご覧ください。政務課市政情報係(☎355-5728)まで問い合わせください。

宗旨宗派不問
つどいの地

永代管理供養墓
～しあわせ～

料金形態

基本料金	ご夫婦お二人様
永代使用料及び管理料 一式 40万円 (税別)	永代使用料及び管理料 一式 60万円 (税別)

仙塩丘の上霊園

宮城県塩竈市
向ヶ丘25番9号

塩釜市月見ヶ丘
霊園向い側

ペット合同供養墓あり

ご相談・お見積り無料
生前申し込み承ります

022-762-8656

樹木葬生前予約分譲開始
※指定石材店は志賀石材店です

仙塩丘の上霊園 検索

「広報しおがま」は、22,800部製作し、1部当たりの経費(印刷・発送)は72円です。

塩竈市は、自主財源を確保するため「広報しおがま」に有料広告を掲載しています。

